

県内企業2026年3月期決算

	売上高	経常損益	純損益	配当
バローHD				
(連)	924,114 (8.2)	30,019 (14.7)	16,476 (20.7)	74.00
(予)	1,000,000	30,500	16,500	76.00
J-MAX				
(連)	51,919 (10.2)	1,140 (黒字化)	891 (黒字化)	5.00
(予)	50,000	1,600	1,000	8.00

【注】単位は百万円、%、配当は円。(連)は連結、(予)は2027年3月期予想。かっこ内は前期比増減率。

27年3月期

売上高 関西、関東に新店舗

バローHD、1兆円見通し

バローホールディングスが13日発表した2027年3月期の連結業績予想は、売上高に当たる営業収益を前期比8・2%増の1兆円とし、当初計画から1年前倒しした。主力の食品スーパー「バロー」の既存店舗売上高が伸びており、関西、関東エリアの新店効果も見込む。実現すれば県内で初めて1兆円企業が誕生する。中東情勢の影響を考慮し、純利益予想は0・1%増の165億円にとどめた。

名古屋市内で記者会見した小池孝幸社長は「スーパーマーケットの個々の売り上げが伸びており、想定よ

り(営業収益1兆円が)早く結果する」と強調。「価値あるものをお客さんに届ける。PB(プライベートブランド)が伸びているの

で、PBで売り上げをつくら」と語った。

バローは鮮魚の対面販売に加えて、店内製造のパンや、フルーツデザート

で競合との差別化を図る。26年3月期の既存店の客数は前期比1・9%増、売上高は5・2%増と伸び、今期もこの流れが続くとみている。

ドミナント(地域集中出店)で攻勢をかける関西は、食品スーパーの店舗数が52店舗(3月末現在)と昨年3月末から5店舗増え、26年3月期の売上高は26・0%増の750億9700万

円と増加した。今月中に採用活動などを担う関西事務所を開設することに加え、24年から稼働する大阪府枚方市の物流センター近くに、食肉加工センターを早期に建設する。小池社長は「(商品は)東海地方からの持ち込みではなく、関西で完結させていく」と説明した。

今秋に関東2号店として東京都内に初出店する関東は、露出を増やして認知度を上げる戦略を取る。

同時に発表した26年3月期連結決算は、営業収益が8・2%増の9241億1400万円となり、31期連続で過去最高を更新。純利益も20・7%増の164億7600万円と2期連続で過去最高だった。23年に始めたクレジットカード事業の会員数が550万人に達し、3年目で黒字化したことに加えて、スポーツクラブの業績も回復した。期末配当は前回発表から1株当たり4円増配の39円に修正した。